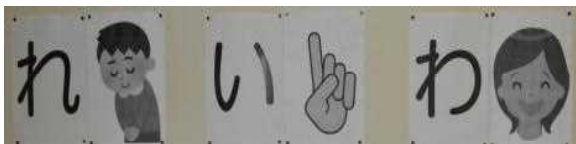


三矢の訓



学校だより
令和2年1月10日
第10号
岡山市立伊島小学校

電話 (086) 252-2251
FAX (086) 252-5657
URL <http://www.city-okayama.ed.jp/~ishimas/>



礼儀正しく 一番に 笑って(笑顔で) 挨拶

あけまして
おめでとうございます
本年もよろしく願い申し上げます

新しい年2020年が始まりました。保護者の皆様、地域の皆様、新年あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、本校教育に多大なるご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございました。伊島の子どもたちが、安心して、伸び伸びと、また楽しく充実した学校生活を送ることができておりますことは、保護者の皆様、地域の皆様のお力添えのおかげと感謝の気持ちでいっぱいでございます。

学校では、3学期がスタートしました。1月に行く、2月は逃げる、3月は去ると言われるように、3学期はあっという間に過ぎ去っていきます。1年生から5年生は、3月25日が修了式です。6年生は、3月19日が卒業式ですから、卒業まで2ヶ月少々しかありません。

短い3学期ではありますが、今まで通り、一日一日を大切に、しっかりと地に足がついた教育活動を進めてまいります。伊島の子どもたちがもっている素晴らしい力をさらに伸ばしていくことができるように、またこれまで以上に子どもたちの笑顔があふれる元気な学校となりますように、教職員一同、一生懸命にがんばりますので、締めくくりの3学期をどうぞよろしく願い申し上げます。



「子年のお話」



2019年は元号が令和に変わり、新しい時代がスタートしました。そして2020年(令和2年)は、いよいよ東京オリンピックが開催されます。そんな2020年(令和2年)ですが、干支は最初に戻ってねずみになります。

干支についてはいろいろと気になりますが、ねずみを表す文字やその意味は何なのでしょう？また、ねずみの年はどんな年になるのでしょうか？

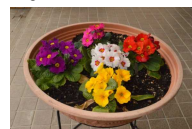
①2020年(令和2年)の干支のねずみの文字や意味は？

干支でねずみは「子(ね)」の文字を使って表します。ねずみ年の文字「子」の意味は、『十二支読本』によると、干支の「子」はもともとはねずみではなく、子供を表す文字だったのです。子は「頭が大きくて、手足がなよなよとした乳児」をかたどった文字です。そこから転じて「子」がうまれたのです。

(引用元：稲田義行著『十二支読本』(2017年)創元社)

②十二支の起源

『十二支になった動物たちの考古学』によると、十二支は紀元前16世紀にあった中国の古代王朝、殷(いん)の時代に生まれました。当時、十二支は日付や時刻・方位を表すのに使われていました。しかし、その頃はまだ十二支は単なる記号で、干支に動物があてられたのは中国の秦(しん)の時代、紀元前200年ごろの



ことです。十二支は天文学や暦・時間などに使われていましたが、初めの頃に使っていたのは学者や貴族などで、まだ庶民は利用していませんでした。そこで、それまで単なる記号であった十二支に身近な動物をあてることで、一般の庶民にも親しみやすいものになり、普及していったのです。
(引用元：設楽博己著『十二支になった動物たちの考古学』(2015年)新泉社)

③「子」がねずみになった理由

『語源十二支物語』でその理由が説明されています。「子」の字には増えると言う意味があり、ねずみもたくさん子どもを作るので「子」の文字をねずみにしたそうです。単なる記号だった十二支に動物を当てはめるとき、最初の「子」の字には何を当てはめればよいか考えたとき、「子」は子どもの子で増えると言う意味がありました。そこで、動物の中で最も多く子を産み増やす、ねずみを十二支の「子」の字に当てはめたのです。

(引用元：山中襄太著『語源十二支物語』(1974年)大修館書店)

④2020年(令和2年)のねずみ年はどんな年になる？

ねずみ年は繁栄の年です。経済だけでなく世の中も盛り上がることでしょう。過去を振り返ってみると、過去のねずみ年にも様々な盛り上がった出来事がありました。一つ例を挙げると、2008年(平成20年)には、ノーベル賞に4人の日本人が選ばれました。2020年もこの様な大きな嬉しいニュースを期待したいです。2020年のねずみ年には、経済・科学・社会全般で日本が繁栄の年になると良いですね。

⑤ねずみが干支で一番最初の理由は？

ねずみが干支で最初の理由ですが、干支が作られた時代は約3600年前と大変古く、資料も残っていないため、なぜねずみ(子)が一番最初なのかは分かっていません。しかし、お子さんに尋ねられた際に、古代中国の話をしてみても理解し難いですし、面白くありません。そんな時には、有名な日本の民話である『十二支のはじまり』を聞かせると良いかと思います。楽しいですし干支の順番も楽に覚えることが出来ます。

絵本『十二支のはじまり』より、あらすじをご紹介します。

十二月のある日、神様は動物たちを集めて言いました。
「来年の1月1日に私の家でごちそうするから来てください。12番目までに来るとご褒美があります。」
ねずみは早く神様の家に着きたいので外で寝ました。ねずみが朝起きると、牛の背中で寝ていました。牛は足が遅いので早くに出かけたのです。神様の家に着くと、ねずみは牛の背中から跳び降りて、神様の家に1番に着きました。牛は2番目でした。その後、他の動物たちも次々にやってきました。神様からご褒美の発表があり、1番目だったねずみのために、「今年を『ねずみどし』にする。」と発表しました。その後、着いた順番に「うしどし」、「とらどし」、・・・と決まり十二支と呼ぶことになりました。しかし、ねこはねずみに騙されて来なかったので「ねこどし」はありません。

(引用元：やまちかずひろ・荒井良二著『十二支のはじまり』(2006年)小学館)

同じ内容の絵本はたくさんありますので、本屋さんで気に入った本を探されると良いでしょう。

(参照・引用元：<https://financel.xyz/life-zodiac-rat/> 許諾済)



子年を迎えるにあたり、「子」の文字の意味や、ねずみがあてられた理由など、調べてみると面白いことや新しい情報が分かりました。

ねずみ年は繁栄の年ですので、皆様にとっても2020年が良い年になるようにお祈りしています。